



佐野藤三郎記念
食の新潟国際賞

第3回
表彰式・受賞者記念講演会

食の新潟国際賞の理念

増大する飢餓人口や食に起因する健康不安など、世界の食の状況は深刻です。食料生産や食品産業が盛んな新潟も、食をテーマに世界貢献しようと、食の新潟国際賞を設け、その実現に取り組んでいます。国際賞は、世界各国から食分野で活躍する個人・団体の推薦を受け、食分野において「世界にとって普遍的な価値を持つこと」「人々の暮らしを救う業績であること」などを原則に選考を進め、「本賞」「佐野藤三郎特別賞」「21世紀希望賞」の3部門で第3回受賞者3名を選定しました。

開催日 2014年10月29日(水)

聴講者募集中

本賞



坪井達史氏(日本)
ウガンダ国立作物資源調査研究所
JICA稲作上級技術アドバイザー

坪井氏は30年間に渡って、アジア・中東・アフリカの開発途上国において稲作技術の指導に携わってきた。前半はアジア各国において水稻を中心に稲作技術を指導した。その後コートジボワールを皮切りにアフリカの活動を行う中で、1990年代半ばに開発された陸稲(ネリカ)のポテンシャルに注目し、2004年以降、ウガンダにおいてネリカ振興のための試験研究や普及に取り組んでいる。氏の技術指導を通じて恩恵を受けたウガンダの農業関係者や農民は1万4千人以上に上る。同氏は、アフリカにおける稲作の技術開発と普及を実践する世界的な第一人者であり、日本を含む国際社会がアフリカにおいて稲作振興に取り組むにあたり、今後も中核的な役割を果たしていくことが期待される。
1949年12月生まれ。(64歳)

佐野藤三郎特別賞



ラク・シユミ・パテイ・ゴウダ氏(インド)
国際半乾燥熱帯作物研究所
(ICRISAT)

ゴウダ博士は過去37年間に亘って、高収量と抗立ち枯れ病や、抗オオバコ対策に重点を置きながら、ヒヨコマメの改良開発研究に携わってきた。博士と彼のチームは、進んだ品種系列を開発し、これを世界中の30カ国供給した。この品種素材を基礎にして、10カ国の発展途上国の科学者たちが、68種類の高収穫品種を開発する事ができた。これらの品種の多くは農家の収入向上や国家のGDPに対して、目覚ましい貢献となった。ゴウダ博士はアジア13ヶ国が参加する「アジア穀物豆類アジアネットワーク(CLM)」のコーディネーターとして共通の目的である「アジア農民の生活を改善するために、それぞれが目指す作物の生産性と生産量の向上」に向かって各国研究者と連携しながら現在も積極的な活動を続けている。1949年6月インド生まれ。(65歳)

21世紀希望賞



中井博之氏(日本)
新潟大学農学部自然科学研究科
助教

自然界には多種多様なオリゴ糖が存在しており、そのそれぞれが独自の機能性・利便性を有しているが、多様性に富むオリゴ糖のそれぞれの単一で低コスト大量調製が困難なため、現在産業的に利用可能なオリゴ糖はごくわずかである。中井博之氏は、ホスホリラーゼという自然界に存在する安全な生体触媒である糖質関連酵素を活用して、ヒトの健康保持増進に有益な機能性オリゴ糖のバリエーションを大幅に拡大(200種類以上)。さらにデンプンやセルロースなどの植物性バイオマスまたカニやエビなどの甲殻類の外骨格を形成するキチンなどの海洋性バイオマス、高付加価値な機能性オリゴ糖に高収率変換する革新的な低コスト汎用製造技術の開発に成功した。1977年10月生まれ。(36歳)

聴講者募集中

表彰式・受賞者記念講演会

日時 10/29(水)14:30~17:00

定員 200名(先着順)

会場 新潟コンベンションセンター
朱鷺メッセ4F「国際会議場」

入場無料 事前申込優先

裏面ファックスにてお申し込みください

主催

(公財) 食の新潟国際賞財団

新潟県新潟市中央区白山浦1丁目425番地9
新潟市白山浦庁舎1号棟4階
TEL: 025-201-8901 / FAX: 025-201-8902
E-mail: info@niigata-award.jp

お問い合わせ

第3回食の新潟国際賞 運営事務局

株式会社 アド・メディック
新潟県新潟市中央区米山3丁目9-6
TEL: 025-245-4087 / FAX: 025-247-8101
E-mail: award@niigata-hatsu.com

食の新潟国際賞とは

新潟は、食料生産や食品産業の盛んな地域です。水と土との壮絶な戦いによって全国一の美田を形成した多くの先人の志を誇りとし、「食の新潟」を築き上げた、先人の献身と情熱を次世代に継承するために、世界に貢献する事業として「食の新潟国際賞」を創設しました。

国際賞は、世界の重要な共通課題となっている食の量的質的課題に対し先進的に挑戦し、めざましい成果を挙げている人(業績)を表彰しています。

「公益財団法人食の新潟国際賞財団」は新潟県内の産業界、農業界、学術界、行政の有志により、2009年3月に財団を設立し、国際賞顕彰事業のほか地域経済の活性化事業、産学官民連携推進事業など幅広く活動を広げております。

顕彰(賞)の事業理念

「食の新潟」を世界の食の情報発信の拠点とし、食の質と量を高め、事業活動を通して食文化を創造的に発展させ、人類の福祉と健康、平和に多大な貢献をもたらした業績を顕彰し、永続可能な社会の確立に寄与することを事業理念としています。

財団の組織理念

新潟県は日本有数の食の生産地であり、また新潟市は極めて高い水準の食料自給率を誇る田園政令市です。「食の新潟」は、佐野藤三郎氏に代表される多くの先達の志と実践によって形成されましたが本財団は、先人の志を継承し、「食の新潟」をさらに世界に発信し国際賞の成果を高めるため運営活動を行います。

(公財)食の新潟国際賞賛助会員

特別会員／ 亀田製菓(株)、(株)ブルボン、亀田郷土地改良区、新潟県農業協同組合中央会、学校法人新潟総合学園、第四銀行、一正蒲鉾(株) 佐藤食品工業(株)、(株)栗山米菓、(株)新潟日報社、(株)新宣、新潟市農業協同組合、(株)エイケイ、三菱商事(株)新潟支店、NST、(株)新潟クボタ (株)電通東日本新潟支社、亀田商工会議所、にいがた22の会、(株)日本食糧新聞社

正会員／ (株)第一印刷所、新潟県信用組合、(株)本間組、ホテル日航新潟、石本酒造(株)、(株)ミカサ、神山物産(株)、(株)山忠、丸七商事(株)、大東産業(株) 日本精機(株)、藤屋段ボール(株)、新潟工科大学産学交流会、(株)タケショー、(株)新潟博報堂、BSN新潟放送、新潟陸運(株)、東邦産業(株) 医療法人愛仁会 亀田第一病院、(株)新潟食品運輸、山崎醸造(株)、月島食品工業(株)、松田産業(株)、麒麟山酒造(株)、(株)鳥梅 (株)フジテレビジョン、日本製粉(株)関東支店、日本甜菜製糖(株)、(株)山由製作所、新潟万代島総合企画(株)、(株)キタック、鍋林(株)、レンゴー(株) 北越工業(株)、丸榮製粉(株)、(株)鈴木コーヒー、TeNYテレビ新潟、(株)栗田工務店、三和薬品(株)、(株)藤井商店、セッツカートン(株)新潟工場 ハセガワ化成工業(株)、(株)加島屋、(株)日本フードリンク、(株)アド・メディック

個人会員／ 藤島 安之、大越 斎、和田 充彦、河内 直史

第3回食の新潟国際賞 表彰式・受賞者記念講演会 参加申込書

はがき、FAX、メールのいずれかで下記必要事項を明記して左記までお申し込みください。

FAXでのお申し込み



FAX番号: **025-247-8101**

申込締切

2014年10月20日(月)

定員
200名
(先着順)

メールでのお申し込み



award@niigata-hatsu.com

送付先・お問い合わせ先

株式会社 アド・メディック 〒950-0916 新潟県新潟市中央区米山3丁目9-6
TEL: 025-245-4087 / FAX: 025-247-8101 E-mail: award@niigata-hatsu.com

氏名 <small>(フリガナ)</small>	様	所属・役職	
住所		TEL ()	
氏名 <small>(フリガナ)</small>	様	所属・役職	
住所		TEL ()	
氏名 <small>(フリガナ)</small>	様	所属・役職	
住所		TEL ()	